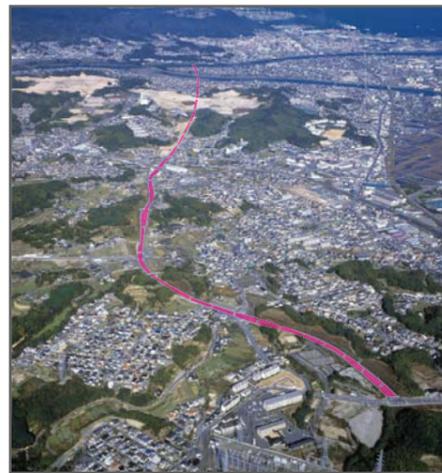


事業の概要

国道188号岩国南バイパスは、岩国市街南部の交通渋滞の緩和や、交通安全の確保を目的とした、岩国市山手町から同市藤生町三丁目に至る延長4.9kmの道路です。

このバイパスは、地域高規格道路「岩国大竹道路」の一部として岩国地域及び大竹地域の連携強化を図る道路です。

平成11年3月には、岩国市藤生町から同市南岩国間（L=1.8km）が2車線で開通し、主要渋滞ポイントである海土路交差点を経ず、錦帯橋方面と岩国市南部とが連絡できるようになりました。



期待される効果

平成17年に供用した県道岩国大竹線（関々バイパス）、県道藤生停車場錦帯橋線（平田バイパス）を含め、岩国都市圏の新たな環状道路を形成することにより、以下のような効果が期待されます。

- ・主要渋滞ポイント「海土路交差点」「尾津交差点」「門前橋北詰交差点」の渋滞解消
- ・交通の定時性が確保され、通勤や通学、買い物などの利便性の向上、産業活動の活性化など地域の発展に貢献

今後の予定

平成18年度は、門前川、今津川の橋梁工事及び改良工事を促進し、平成19年度に残りの区間（3.1km）の供用を目指します。

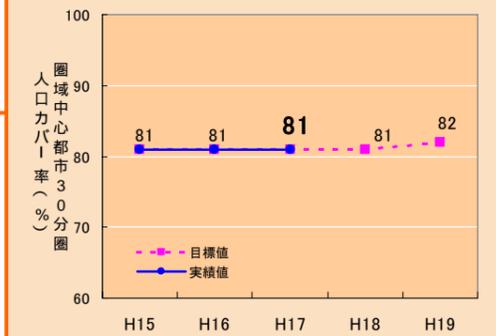
事業区間	延長	進捗状況
海土路地区～平田地区	1.8km	平成11年3月 暫定供用済み
平田地区～山手地区	3.1km	平成19年度 供用目標



◎地域交流の円滑化推進

アウトカム指標：圏域中心都市30分圏人口カバー率  
8つの生活圏内の連携を強化する道路網整備の指標

指標 〔圏域中心都市30分圏人口カバー率＝圏域中心都市30分圏人口/山口県人口〕  
解説 圏域中心都市まで30分で到達可能な地域に住んでいる人の割合



下関地域の狭い到達エリア

山口県には中規模の都市が点在しており、8つの広域生活圏からなる分散型の都市構造を形成しています。中山間地域の多くは、圏域中心都市まで30分で到達することができず、特に下関地域では30分で到達可能なエリアが限られています。



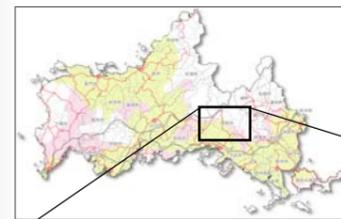
広域生活圏と圏域中心都市30分圏域

平成17年度の目標達成状況

平成17年度は指標値向上に寄与する主要な道路の供用がなかったため、圏域中心都市30分圏人口カバー率は平成16年度と変わらず81%となっています。

バイパス整備によるカバー率の向上

平成18年度は、平成19年度の目標達成を目指して、現在部分供用している「国道376号須々万バイパス」の全線供用に向け事業を推進していきます。また、現在到達エリアの限られている下関エリアにおいては、「国道191号下関北バイパス」の残区間の供用を目指し事業を推進していきます。



須々万バイパスは、新市の中心部（旧徳山市）を連絡する道路として、幅員狭小・線形不良の隘路区間の解消など、安全で安定した交通の確保を目的に整備を進めています。

進捗状況（H17末）：80%（事業費ベース）



須々万バイパス 既部分供用区間

現状と達成度報告

業績計画